



ホタルのオス・メスは、どうやって見分けるの

腹側の白い発光器の数でわかる

日本のホタルの代表的なものは、ゲンジボタルとヘイケボタルでしょう。日本のあちこちで話題になることが多いのは、ゲンジボタルのほうで、6月ごろ成虫になり、川のほとりや土手で、夜光りながら飛び回ります。ヘイケボタルはゲンジボタルより体が小さく、成虫になるのも少しおそい7～8月で、水田や湿地の周りを飛び回ります。

オス・メスは、腹側をよく見ると、見分けることができます。どちらの種類のホタルも、オスよりメスのほうが体が一回り大きく、白い発光器の節の数がちがいます。オスはおしりの先に近い5節と6節が発光器ですが、メスは5節だけです。また、メスは、おしりの先の方が赤い色をしています。

ホタルは、光の点めつで会話している

ホタルは、卵も幼虫も、さなぎも発光します。成虫になったホタルは、おしりの光を点めつ(つけたり消したりする)することで、合図をしあっています。ホタルの種類によって、点めつのしかたがちがいます。同じ種類のホタルでも、オスとメスでは、ちがいます。この点めつのちがいで、ホタルは、同じ仲間を見分けたり、結婚相手のオスやメスを探すことができます。(監修・中山 周平)

ゲンジボタルのオス、メスのちがい

